

研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R5年7月3日(月)
第2号

働くことプロジェクト

4年 総合「10才のハローワーク～働くことってどんなこと?～」

◎授業について

大森の海苔づくりは、羽田空港建設などの社会的要請から、東京湾ではなくなった産業ですが、現在も40以上の海苔問屋が営業しています。3年生では、単元「伝統としての地場産業」として、海苔問屋の仕事内容を調べ、社会科では、埋立地の建設とともに東京湾で漁業をすることができなくなった背景も学習しました。こういったことから、「なぜ、漁業ができなくなったのに、海苔問屋を続けているのだろう」という海苔問屋で働く人々への思いが高まりが見られ、さらに、年度初めの学年全体指導で「年齢が二桁になる年」であることを意識付けた際に、自分の将来に対する思いの高まりも見られました。そこで4年生では、単元「10才のハローワーク～働くことってどんなこと?～」を設定しました。本単元では、「働くこと」について児童にイメージさせることにより、「働くこと」に対しての想像と実際に働く人々の思いを比較・総合することで、「働くこと」に対する明るいイメージをもたせたり、人生を豊かにできるものであるという意識をもたせたりしたいと思います。そして、もたせた意識を基に、昨年度から関わっている守半海苔店のCMをつくるという、守半海苔店からの依頼(仕事)を行うことで、働くことをさらに自分事として捉え、地域社会に貢献するなどして、令和7年度開始の教科「おわたの未来づくり」を視野に入れた活動となるように考えました。

また、3年生から意識付けしてきた学習課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という探求プロセスを丁寧に追うことで、探求的に学習することのよさに気付かせたいと考えました。さらに、これまでの特別活動の研究を生かした児童の他者への理解を発揮させることで、協働的な学びを充実させ、本校の今年度の研究課題である「生きる力」につながる主体的な学びや問題解決力の素地を身に付けさせたいと思います。

研究授業では、守半海苔店の方のインタビューを通して学んだことを基に、もし海苔屋さんに10年勤めるとしたら、どのような思いで働きたいかについて考えました。そして、改めて、働くうえで自分が大切にしたいことを考え、自分の考えを友達と共有しました。子どもたちは、働くことに対して前向きな気持ちを持ち、「他にもどんな職業があるのか調べてみたい」と次時以降の課題も見つけていました。

☆指導・講評

・調べる段階では、資料の表す意味、施設の見学、電話のかけ方、インタビュー、新聞の活用など、様々な方法があるので、学校全体として、何年生で何を何の教科で学ばせるのかをしっかりと把握し、系統だった授業を行う必要がある。

○総合的な学習の時間は、地域にいかに関わるかがとても大切である。今回の指導計画では、CMを作成することになっており、関わり方としても良い。このような関わり方を他学年と相談し、どう系統づけて行っていくかが今後の課題である。

○友達の見解を聞く姿勢がとてもよかった。具体的には、話す人の方をみてうなずいていた。→その上で、関連発言をできるように育ていきたい。

▲海苔が出ていたので、現物をどこかで提示できると良かった。百聞は一見に如かずという言葉の通り、現物によって児童の意欲や考えようという意味も引き出すことができる。



